

まんだら通信

第258号 (通巻292号)

平成30年03月 西暦2018年 佛暦2561年 皇紀2678年

安房国八十八ヶ所 第一番札所
295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 鈴木 龍芳
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
<http://www.shiunji.org/>
Mail post@shiunji.org

スリランカの法要

先ず最初に、三月七日、師僧龍渉の四十九日の法要を紫雲寺本堂にて安房第二教区のご住職の皆様にお集まりいただき行うことができましたことをご報告いたします。

翌日、スリランカでは、葬儀の折にもはるばる来日してくださったアンギラサ師のお寺で、あそか基金の奨学生、及び関係者の皆様参列のもと師僧の法要が営まれました。

写真は昨日(三月十日)アンギラサ師が送信して下さった沢山の写真の中の三枚です。紫雲寺では、まだお墓ができていないため納骨済んでいませんが、以前まんだら通信でお伝えしたことがあるアンギラサ師のお寺の仏塔に分骨した



遺骨を納めていただくことになりました。このようにたくさんの方に参列していただけたらと思ってもおりませんでしたので、感謝するとともに驚きました。

私はまだスリランカに行つたことがありませんけれどもいつの日か訪問してみなさんにお礼を言いたいと思います。

あそか基金はとても小さな基金なので、実際の程度、子供さん達の学費の足しになっているのかわかりませんが、誰かが応援してくれると思う気持ちが励みになっていけば嬉しく思います。

あそか基金と東京のお二方の基金をアンギラサ師が管理していらつしゃいますが、現在あそか基金の奨学生は三十名くらいだそうです。



アンギラサ師は大変お忙しい中、奨学生の決定や月々のおこづかい帳の確認、奨学金の受け渡し、全てご自分でまた無償でしてくださっています。本当にありがたいことです。

お墓参り

お彼岸も近づいて来ました。お墓にお参りしたいけれども、事情でなかなかお参りできないといったお話をよくお聞きします。お彼岸に限ったことではなく、ご命日、またふと思

立ったときなど、お知らせいただければ、私たちが代わりにお参りします。お気軽にご連絡ください。



お経

平成二十年六月発行のまんだら通信から再掲載します。「付け足しのような」という師僧龍渉の記事です。

『お経』と私たちがいうのは、一般には「如是我聞」つまり、「私はこのように聞きました。」で始まり、靈鷲山とか祇園精舎など場所挙げ、そこには聞き手が、例えば大迦葉尊者他大勢がおりましたという説明があつて、始めて本題に入ります。

この「私」は阿難尊者のことですが、阿難尊者はお釈迦さまの侍者としていつも身近におられ、お釈迦さまのお話を沢山聞くことができたので、多聞第一とよばれお釈迦さまがお涅槃に入られてすぐの結集つまり編集会議の時、みんなに推されて責任者になりました。因にその頃、インドには文字が既に取りましたが、聖典は文字に表さず言葉だけで伝えました。

文字になったのは、それから数百年後のアシヨーカ王の時代だそうです。この口伝えの伝統があるスリランカのお坊さんの暗唱力は、日本人には想像できないほど見事なものです。長いお経の真ん中からでも終わりからでも、すらすらとお唱えできます。演歌のような短いものでも、二行目から歌えと言われて即座に出来る人は、あまりいないのではないのでしょうか。

前置きが長くなりました。お経は、このように一般には聞き手がありますが、そうでないものもあります。誰に言うわけでもなく、独り言のように仰つたお言葉を集めたお経です。その一つ『法句経』に次のような一句があり

一切の悪をなさず
善を行ひ
自己の心を浄む
これ諸仏の教えなり

これは『七佛通戒偈』といわれる有名な一句ですが、なんだ、仏教ってそんな当たり前のことを言っているのかといわれそうです。

昔、中国の王様が、達磨大師が自分の国にきて大層な評判であるという話を聞き、出向いて行って仏教とはどういう教えなのか。」と尋ねたそうです。達磨さまは「悪いことはするなという教えです。」と答えたなら「なんだ、三つ子でも分かることを大層な。」とがっかりしたところ「あなたはその出来るのですか。」といわれて返答に困つたという話があります。

このお経も、悪いことは何か、善いことは何か、何がしつかり分からないと話が進みませんね。観音さまのように、いつもおだやかなお顔だけが善ならば、お不動さまの怖いお姿の意味がわかりません。困っている人にお金を呉れば、その人が幸せになるかどうか、実際のところは分かりません。東京の下町で、献身活動をしている神父様がいらつしやるそうです。それに賛同して、食べ物や衣類が全国から送られてきます。冬の夜はさぞ寒かろうと毛布を渡すと、それがすぐにアルコールに化けてしまう人もいます。だそうです。親切も根気が要ることなのですね。

『七佛通戒偈』はほんの一例ですが、お釈迦さまを始め古来多くの名僧達が口を酸っぱくし

て「良いことをしなさいよ」といったのは、お金や地位などより、自分が遙かに幸せになれるのが「善行」つまり本当の意味で人を喜ばせることなのだよ、ということなのですね。そして、自分が多少の犠牲を払っても他人を幸せにするのが実は、この世に生まれて最高の幸福なんですよ、ということですね。思つても実行しなければ絵に描いた餅です、と言う人もいます。

然し、思わなければもつとダメですよ。要は、忘れずに繰り返し思い出し、確かめることでしょうか。こういうとき、仏様はどうお思いかと想像することも大事ですね。つまり、仏様の前に座り仏様という鏡に自分を写してみることにえましようか。もう一つの方法があります。

おととい、那古寺さんで安房の若いお坊さんの主催で、チベットの仏教やチベットと中国のかかわり合いを勉強する機会がありました。講師の田崎国彦先生のお話は、学者先生にありがちな分かりにくい話し方ではなく、実に丁寧で良く分かる話し方で、随分得をした思いで還つてきました。

中でも強く印象に残ったことは、チベットの人は輪廻転生（人は何回も生まれ変わるということ）を固く信じているのですが、「総ての生き物は、嘗て私の母だった。」という思いから修行を始めるのだそうです。

ロジョンという方法だそうですが、段階を積んで仏の心、慈悲を身に付ける修行のことなのですが、その中に、「自分と他人を入れ替える」修行があるそうです。「こういうとき、若し私が相手の立場だったとしたら」という考え方が自然に出来るようになれば私も周りも随分穏やかになるだろうなと思いました。



▼ホトケノザしそ科オドリコソウ属 写真も勉強しておくようにと父に言われながらも、怠け者の私は自分の子供たちが大きくなってからはカメラを手にしたことさえありません。今回の写真はスマホのカメラで失礼します。ホトケノザという名前は葉の形状が仏様の台座のように見えるからだそうです。この時期畑の畔や野原いたるところにみられます。小さな花ですが、近寄ってみるととても美しい色と形です。
2018.03.11 龍芳

▼いつの間にか藪の中からウグイスの声が聞こえてくる季節になっていました。今年の冬は特に寒かったような気がしますが、暖かい春の日差しを感じるようになってきました。気温の差が激しい時でもあります。皆さまお身体お大事におすごしください。
▼紫雲寺とあそか工芸を私が引き継ぐこととなりました。相続や登記など思った以上に煩雑で時間もかかります。まんだら通信の発行も遅れていまして、ひと月遅れでお手許に届く場合もあるかも知れません。何卒ご容赦下さい。

余滴